

編集後記

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報『ジェンダー研究』第7号の刊行にあたり、執筆者、査読者、特に本学外でお願いした査読者の方々をはじめ、ご協力を頂いた皆様に厚くお礼を申し上げます。

本号では、2003（平成15）年度4月から8月まで客員教授として赴任されたジョセフィン・ホー台湾国立中央大学教授に、依頼論文としてご寄稿を頂いた。外国人客員教授による夜間セミナーは、ジェンダー研究の最先端をより広くご紹介するという役割を負っている。ホー教授による夜間セミナー「東アジアにおけるジェンダー／セクシュアリティ理論と政治の諸課題」のパワフルな5回の講義は、常に熱気に包まれていた。セミナーで交わされたコメンテーターや参加者の方々との刺激的な討論が反映された、トランス・セクシュアリティに関する論文をお寄せ頂き、セミナー運営の一環を担った者として、嬉しい限りである。

投稿論文としては、若手研究者の論文が4本、掲載されることとなった。それぞれに意欲的な論文であり、日本と中国の女性史に新しい視点の導入を試みる丹野論文と何論文、在独フィリピン人移動家事労働者の現状を質的分析する篠崎論文、安全保障のジェンダー分析をする秋林論文は、ジェンダー研究の学際性が表れているライン・アップではないだろうか。

研究報告では、女性科学者、加藤セチ博士の生涯と研究が丹念に追われており、貴重な資料をもとに先駆者の足跡を辿ることができる。

今年度より研究機関研究員として着任し、ジェンダー研究センターには多様な分野からの研究者が集まってくることを実感している。そのような幅広い分野からの、そして国際的なジェンダー研究者のネットワークによる共同研究の一つが「東アジアにおける植民地的近代とモダンガール」である。今後の研究の推進に大きな期待が寄せられる研究プロジェクトであるだろう。

書評では、切望されていた翻訳書を2冊と最新の研究書1冊をご紹介することができた。本学外も含めた書評者、関係者のご協力に感謝の意を表するものである。

今年度、初めて『ジェンダー研究』編集事務局を務めることとなり、右往左往することが多かったが、丁寧なお手伝いを頂いた校正者の方をはじめ、多くの方に助けられ、刊行にこぎつけることができ、今はただ、安堵するばかりである。皆様に深く感謝する次第である。

2004年（平成16）年度から、国立大学が独立法人に移行することになり、組織内では混乱も少なくな。しかし、これはまた、『ジェンダー研究』にさらなる発展の可能性をもたらすものと期待したい。ジェンダー研究センター、『ジェンダー研究』に引き続き、皆様からのご協力とご支援をお願いして、編集後記を閉じることとした。

編集事務局 秋林こずえ（研究機関研究員）

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報
『ジェンダー研究』

第7号 編集委員会

委員長	波平恵美子	ジェンダー研究センター長 文教育学部人間社会科学科教授
	牧野カツコ	人間文化研究科人間発育科学専攻教授
	増永 良文	理学部情報科学科教授
	宮尾 正樹	文教育学部言語文化学科教授
	坂元 章	人間文化研究科複合領域科学専攻助教授
	館 かおる	ジェンダー研究センター教授
	伊藤 るり	ジェンダー研究センター教授
	河野貴代美	ジェンダー研究センター教授
事務局	秋林こずえ	ジェンダー研究センター研究機関研究員

平成16年3月17日 印刷

平成16年3月22日 発行

編集・発行 お茶の水女子大学ジェンダー研究センター

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

Tel 03-5978-5846 Fax 03-5978-5845

E-mail igs@cc.ocha.ac.jp

URL <http://www.igs.ocha.ac.jp/>

印刷・製本 (株)昭和堂 東京支店

〒104-0042 東京都中央区入船1-1-26 永井ビル2F

Tel 03-3552-7541 Fax 03-3552-7542
